

2021年度 第24回 関西まちづくり賞 表彰式を開催

日本都市計画学会関西支部では、1998年度から「関西まちづくり賞」を設け、まちづくり、都市計画の進歩・発展に著しい貢献をした優れた成果又は実績を表彰しています。2021年度は、2つのプロジェクトをまちづくり賞に1つのプロジェクトを奨励賞に表彰しました。

表彰式は、新型コロナウイルスの感染状況などの影響を考慮し、2022年4月9日（土）、関西支部総会にひき続いて開催し、表彰状及び盾の授与の後、受賞者によるプレゼンテーションとパネルディスカッションを行いました。



受賞者の皆さんと支部長、関西まちづくり賞委員会委員



パネルディスカッションの様子



質疑応答の様子

<第24回 関西まちづくり賞 表彰プロジェクトの紹介>

◎関西まちづくり賞

① 『鉄道高架下を活用したまちづくりプロジェクト「TauT（トート）阪急洛西口」』

受賞者：阪急電鉄株式会社、株式会社エキ・リテール・サービス阪急阪神

鉄道高架化で生み出された、総延長約1kmの高架下空間を「TauT（トート）阪急洛西口」と名付け、周辺エリアの価値向上や活性化を目指した「まち」と調和した空間整備による、まちの魅力を高める取り組みです。

高架下空間に、地域に根差した店舗や子育て支援施設、オープンスペースを組み合わせた新たな公共空間を創出しています。さらに、高架下をキャンパスに見立て、交流型イベント等である「洛西高架下大学」を開催するなど、まちづくりを担うプレーヤーも育成しています。駐車場等に活用されがちな高架下空間を、まちづくりに開放するという先進性と実効性が高く評価されました。駐車場や駐輪場等として活用されがちな高架下を地域のにぎわいの空間、憩いの空間として整備により、まちの魅力を高める取り組みであり、他地域でも参考となる汎用性のあるものとなっています。



ご受賞おめでとうございます



TauT（トート）阪急洛西口による高架下の活用状況

② 『地元主体による城崎温泉における5年間に及ぶ交通環境の改善と、地域一体となった「そぞろ歩きルール」の制定と実施』

受賞者：城崎温泉交通環境改善協議会、同協議会アドバイザー、一般社団法人グローバル交流推進機構 土井勉、豊岡市都市整備部建設課

城崎温泉の地域住民及び関係事業者で組織する協議会が、歩行者による円滑な「そぞろ歩き」の実現を目指して自動車の自主的な交通規制を5年前から模索する取り組みです。社会実験を通して、そぞろ歩きを阻害している車両（観光客、生活・業務・集配など住民等）を分析し、15時から18時に特定されたそぞろ歩きが多い時間帯には、駐停車や車の使用を控える自主ルールを制度化しました。このルールは関係者が無理のない範囲で協力するという緩やかさに工夫が見られ、実効性をより確実にしていると考えられます。

若いリーダーの存在、地域理解のため回数を重ねる説明会、交通事業者・行政・警察との連携など、観光地まちづくりに大いに参考となる点も評価されました。



ご受賞おめでとうございます



ワークショップの様子

◎奨励賞

③ 『京都市伏見区深草・藤森・藤城学区における「とまり木休憩所・おでかけベンチ」の設置活動』

受賞者：とまり木休憩所・おでかけベンチ協働プロジェクト実行委員会

地域の課題であった「高齢者が歩いて暮らせるまち」の実現を目指し、高齢者が買物、通院、散歩など気軽に外出し歩き継ぐことを可能にする「ベンチ」をまちなかに設置する活動です。主に個人宅や店舗などの私有地に設置したベンチは、これまで44ヶ所を数え、地元住民の憩いの場となっています。また、ベンチ製作をはじめマップやプレートづくりにより世代を超えた交流が生まれています。ベンチを活用したイベント開催など地域の魅力づくりにもつながっており、地域住民が身近にできることを実現する、手作りのまちづくりの好例といえます。

さらに、地域内の多様な団体との連携、隣接する他の地域への影響など、継続性や波及性にも期待できます。



ご受賞おめでとうございます



ベンチでの交流の様子



設置候補地への協力依頼



ベンチ作製会の様子